

四国大学短期大学部

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

四国大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 四国大学
理事長	佐藤 一郎
学 長	福岡 登
A L O	上田 喜博
開設年月日	昭和36年4月1日
所在地	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ビジネス・コミュニケーション科		70
生活科学科	生活デザイン	25
生活科学科	食物栄養	40
生活科学科	生活福祉	50
幼児教育保育科		110
音楽科		25
	合計	320

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

四国大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

さまざまな行事、式典、印刷物、ウェブサイトなどを通して教育理念を広報し、短期大学の姿勢を示している。

短期大学としてふさわしい教育内容を有し、教育課程の編成もおおむね体系的に適切なものとなっている。また、改善への努力もみられる。

教員と職員が一体となって、学生指導にあたっていることは高く評価される。特に学生の指導のために多数の事務職員(学事事務職員)を配置していることは特筆すべきである。また、設備や図書館なども併設の四国大学との併用であるが、充実しており、地域文化への貢献を果たしている。

教育目標の達成度と教育の効果については、全人的自立の理念を達成すべく、組織的で地道な教育努力が続けられている。

学生への支援体制は、併設の四年制大学と連携しつつ、全学的、組織的に行われている。教職員全員が一丸となって、学生を支援すべくよく努力をしており、その支援内容は充実している。特に資格取得を目的とする学科(資格取得系)では、入学からインターンシップ、就職、その後までの一連の仕組みが地元で根ざした形で作り上げられている。

短期大学全体が、研究活動に理解があり、それに対する諸条件の整備も行き届いている。また、徳島地域との連携を重視し、さまざまな点でかわりを有している。

併設の四国大学とともに、地域に開かれた短期大学を自負し、活発に社会的活動を行っている。また、学生の活動への支援体制も整えられ、徳島名物の阿波踊りへの大学の“連”としての参加実績には定評がある。国際交流も継続して実施されている。

理事会、評議員会は寄附行為の規定に基づいて、定例的に開催され、理事長も長年培われた識見と豊富な経験をもとに、学校法人運営全般にわたりリーダーシップを発揮してい

る。監事もその機能を適切に遂行している。教授会も学則の規定に基づき定例的に開催され、また各種委員会も目的に応じて適宜開催されている。教職員の意思疎通も十分に図られており、各々の役割に応じた責務を果たしている。

学園全体の収支状況は、良好に推移、また財政状況も、健全に推移している。短期大学の収支もほぼ均衡している。予算の編成の手續、予算執行、資金資産の管理も適正に行われている。必要な施設・設備も整備され、それぞれの管理責任者、使用責任者が適切に管理を行っている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

現代社会において必要とされる教養教育のために「自己表現論」という科目を設け、全学生を少人数グループに分け、徹底した教育指導を行っていることは、優れている。

評価領域 教育の実施体制

事務組織における学事事務職員の配置は、学生指導に大きな役割を果たしている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

資格取得系の学科専攻については、学生の入学時より目標は明確であり、卒業後の進路就職に直結した教育が組織的、制度的に行われ成果を上げている。

評価領域 学生支援

教員だけでなく教務、学生、就職などの学事事務部門が、学生とのコミュニケーション、指導・支援などの面から非常に効果的に機能していることは特筆される。建学の精神（全人的自立）の具現化のために、短期大学全体として組織的、制度的、継続的に取組んできた点は評価できる。

評価領域 研究

生活デザイン専攻で、徳島の企業などと連携して、研究活動を進行している点は、高く評価できる。

評価領域 社会的活動

オープンカレッジは、内容、開催回数ともに充実しており、地域社会に対する貢献度は高い。

図書館における「凌霄文庫」の存在は、地域文化に貢献している。

評価領域 財務

将来の施設設備などの拡充に備えて、第2号基本金を目標ごとに定め、諸引当特定資産を計画的に積立てている。

評価領域 改革・改善

理事長自身が短期大学の現状をよく把握しており、改革・改善に非常に前向きな姿勢が認められる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

履修人数が著しく少ない科目のあり方について検討されたい。

評価領域 学生支援

支援体制およびインフラは併設四年制大学と連携しており充実している。そのメリットは学生には大きいものの、一方で短期大学独自の取組みも期待される。

評価領域 研究

展覧会、演奏会、教育に資する研究活動などを含め、研究活動全般に係る評価方法、基準などの検討が望まれる。

評価領域 管理運営

理事、評議員について、幅広い人材登用を図り、より外部性を高めることも検討されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は確立している。建学の精神は「全人的自立」であり、それに基づき教育理念が確立している。

「全人的自立」をわかり易く説明しようとする努力がみられる。また、学内でも全人的自立をサポートする体制がみられる。

さまざまな行事、式典、印刷物、ウェブサイトなどで理念を広報し、短期大学の姿勢を示している。ただし、各学科、専攻でそれらの専門性と関連させた広報にも取組まれない。

評価領域 教育の内容

教育課程は4学科3専攻別に体系的に編成されている。主要科目に対する専任教員の配置もおおむね適切である。

各学科・専攻の特色をいかした教育課程であり、免許・資格などの取得のための配慮もなされている。

シラバスは十分な内容を有し、冊子として学生に配布されている。ウェブサイト上での閲覧も可能である。

学科・専攻により差はあるが、授業の改善・充実への努力する姿勢は認められる。ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動は全学的行事として運営されている。

評価領域 教育の実施体制

キャリアのある教授を中心に教員組織は整備されている。年齢構成のバランスはやや高い。

併設の四国大学との共用で、教育環境はきちんと整備され活用されている。

「凌霄文庫」など、特に地域の資料収集が充実し、学生へのサービスも充実している。教員と職員が一体となって、学生指導にあたっていることは高く評価される。事務組織における学事事務職員の存在は特筆すべきである。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定および評価に関しては、現状では全体的には適切であるが、学科、教員間でばらつきがみられる。学生の授業評価は継続的に実施されているが、データの活用は原則として各教員に任せられている。また、活用方法などは学科間で必ずしも統一されていないが、学科によっては積極的、組織的に活用され教育の改善に役立っている。資格などの取得に関しては、学科、専攻間で少なからず温度差があるものの、学科ごとに新たな免許・資格などの導入が積極的に検討され行われている。特に資格取得系の学科では積極的、組織的に取得がサポートされ促進され、実績も充分である。

卒業後評価については、学科によって取組みに温度差はあるものの、その努力は充分である。特に資格取得系の学科では、そのカリキュラム上、専門資格への取組みおよび、結果としての専門領域への就職サポート体制は構造化されており、取組み、実績、卒業後のアンケートなどによる評価聴取体制も充分である。資格取得系以外の学科でも、平成15年以降毎年100社以上の企業訪問を行い、卒業後の評価聴取の努力がされている。

評価領域 学生支援

地方出張入試など、様々な入試形態を採用している。入学案内、募集要項も整備され、広報、選抜制度、入学までのフォロー体制など適切に遂行されている。

履修に関する印刷物は分かりやすく、教職員によるマンツーマンの履修アドバイスが行われている。また、まだ組織的ではないが、基礎学力不足の学生への補習授業なども一部で行われており、支援体制はおおむね良好である

教員と学生部職員を中心に学生への相談体制は組織的、制度的に整備されている。職員には卒業生が多く、学生にとっては身近で親身な存在である。また、施設・設備も併設四年制大学と共用しており充実している。

進路支援に関して、資格取得系については特に支援体制および地元の就職先とのつながりも充分出来上がっており、内定率も高い。資格取得系以外の学科においても、支

援体制を確立すべく努力されている。

社会人学生や留学生などの多様な学生の入学実績は少ないものの、受け入れのために必要な制度、設備は整えられている。

学生への支援体制は、併設の四年制大学と連携しつつ、全学的組織的に行われているが、短期大学生の特質に応じたきめ細かい対応が望まれる。

評価領域 研究

アカデミックな研究者も教員に十分に配備され、短期大学としては十分に研究活動が展開されている。

研究費、特別研究費などが予算化され、また、全学の図書費なども充分である。今後は、短期大学における教育活動に資する研究へのより一層の支援の充実が望まれる。徳島県文化振興基金などから助成金を受けるなど、徳島地域との連携を深めている。

評価領域 社会的活動

四国大学生涯学習センターを設置し、社会的活動を支えている。市内中心地に「四国大学交流プラザ」を開設し、地域活動の活性化を推進している。

教育改善活動助成事業として「学生ボランティア活動支援室」を立ち上げ、学生の社会的活動を支援している。

アメリカ、イギリスの大学と姉妹校であり、国際交流を実施し、教員の国際会議への出席も行われている。

学生の活動への支援体制も整えられ、徳島名物の阿波踊りへの大学の“連”としての参加実績には定評がある。

評価領域 管理運営

理事長は、学校法人の適切な運営と改革に注力している。理事会、評議員会も寄附行為の規定に基づき適切に運営されている。また監事も毎回理事会に出席するなど、十分に機能を果たしている。

教授会は、学則の審議規定に基づき、適切に運営されている、また教授会のもとに各種委員会が設置され、その目的に応じて適切に開催されている。学長も予算の策定から執行まで把握し、優れた教育・研究活動には、学長施策費が設けられている。

多くの職員を配置し、その60%が短期大学の状況を熟知している卒業生であり、きめ細かな支援体制がとられている。事務処理のための事務室、施設、機器・備品も整備されている。

就業に関する規程も整備され、教職員に周知されて、各責任者のもと適切に人事管理が行われている。また保健管理課を中心に、健康相談、健康増進支援に取り組んでいる。

評価領域 財務

中・長期計画も策定され、予算の編成、予算の執行、資金資産の管理など適正に行われている。

学園全体の収支状況は、良好である。

必要な施設・設備は、適切に整備されている。

評価領域 改革・改善

過去3回、平成5年、平成8年、今回と、自己点検・評価が行われている。

改革・改善については、全学的なシステム構築が図られているが、その有効な活用はこれからの課題である。